

第 8 回 山鳥坂ダム環境検討委員会の 意見、質問と補足事項

国土交通省 四国地方整備局
山鳥坂ダム工事事務所

第8回 山鳥坂ダム環境検討委員会(平成18年9月12日開催)の意見、質問と補足事項(1)

No.	分類	指摘事項	第8回委員会における回答の要旨	補足事項
1	(環境) 動物	準備書の段階においては、保全の事も考慮しないとイケないが、キイロサナエやアオサナエの詳細な分布を把握するための調査はどの程度実施しているのか。	事業の影響を受ける範囲については十分に調査を実施し、その結果に基づき予測を行っている。周辺部の分布の可能性については、指摘を踏まえ今後確認する。	-
2	(環境) 植物	クロムヨウランは珍しい種であり、今回はクロムヨウランとまで確定出来なかったが、来期8月に調査して確認された場合の対応はどうするのか。	来年の花の咲く時期に調査し確認したいと考えている。確認された場合は影響予測を行い影響ありと判断されれば移植や影響の監視という保全措置を講じていく。	-
3	(環境) 植物	植物の貴重種が移植で対応されがちだが、自生地や二次的なインパクトも考慮すべきである。少なくとも移植の事例があるか把握する必要がある。	概ね20種類については移植事例等の知見を収集しており、そのことから移植可能と考えている。今後、専門家の意見を聞きながら段階的に移植を実施し、確実に移植ができるよう努める。	-
4	(環境) 植物	移植先の環境が重要であり、そのことを十分に踏まえて対応して欲しい。	移植先の環境については十分に調査する。移植方法としては土壌ごと移植する方法も検討していく。	-
5	(大気環境等)	騒音と振動については現況のデータが出ているが降下ふんじん、煤煙については現況のデータは示さないのか。	測定している。鹿野川地区では平均で2.2t/km ² /月という測定値である。	-
6	(大気環境等)	調査結果として昼間の値が出ているが、実際には夜間工事もあり、その場合85dbという値は非常に高いのではないのか。	現段階の工事計画ではダム堤体は夜間工事を行う予定であり、夜間では大きな音になるので地元で十分説明するとともに極力騒音を低減する措置を講じていく。	-
7	(大気環境等)	ダム堤体について夜間工事を実施することをはっきりと記載すべきである。	準備書には堤体工事は24時間、夜間工事もある場合があることを記載する。	-
8	(大気環境等)	騒音と振動では瞬間的な値の他に、低くても継続的な音や振動がある。工事用車両が継続的に沢山走る場合、積分のような形で音や振動が表されると思うが、このような場合はどのように評価するのか。	時間ごとに音が変わるので、エネルギー的に平均して、等価騒音レベルという形で評価している。瞬間的に出る値については、概ね最大の値を評価の値としている。	-
9	(大気環境等)	スパイクタイヤの粉じんというのはコンクリートを削って出るものと考えられるが、ダム工事においては主に砂や土煙だけと考えられるのか。	粉じんの発生源は、地山の掘削や土砂の掘削であり、ほとんど土壌粒子だと考えられる。	-

第8回 山鳥坂ダム環境検討委員会(平成18年9月12日開催)の意見、質問と補足事項(2)

No.	分類	指摘事項	第8回委員会における回答の要旨	補足事項
10	(大気環境等)	対象事業以外の影響も加わって基準値を超える事が考えられるが、実際の工事ではどのように対処するのか。	この場で具体的な対策まで示せないが、もし影響が想定される場合は十分に関係地域に説明を行いながら工事を進めるとともに、影響がある場合は速やかに対策を講じていく。	-
11	(大気環境等)	事業実施区域周辺の住民の生活環境が基本であり、基準以下ということではなく、現況との差をどれだけ小さくできるかということを考えるべきである。	調査結果と予測結果から、現況よりどの程度高くなるかを明らかにした上で評価している。影響が生じる場合は、関係住民の方と密に調整し配慮しながら工事を進めていきたい。	-
12	(大気環境等)	資料の中で騒音の予測結果は評価の基準との整合を図られているとなっているが、整合が図られているというのは具体的にどうなのか。	行政的な表現で記載しているが具体的には、整合が図られているとは評価の基準値を下回っていることを示している。	-
13	(大気環境等)	整合が図られているは、分かりにくい表現であり、説明会のように準備書でも分かりやすい表現にできないのか。	準備書は、法律に基づき作成しており、その法律を満たしていることを明らかにする必要があるため、内容によっては法律用語を記載せざるを得ないものもあると考えている。	-
14	重要な地形	カラ岩谷遺跡はサーチャージ水位になったときに2つの穴が水没するということが、まだ発掘されていない遺跡が残っている可能性はないのか。	もうないと考えているが、今後、必要があると認められる場合は、再調査を行う。	-
15	重要な地形	今、四国で見つかるオオサンショウウオは殆ど移入されたものだろうということになっている。そのため、愛媛県で出たオオサンショウウオの化石は非常に貴重な資料と考えられる。	-	肱川町敷水からオオサンショウウオの化石が発見されていることは、論文(鹿間時夫、長谷川善和1962)に記載されている。また、「日本の重要な両生類・は虫類の分布(環境庁昭和57年)」、「レッドデータブックまつやま2002」にもその事に関する記載があり、貴重な資料と考えられている。敷水で発見されたオオサンショウウオの化石(下あごの部分)は現在、国立科学博物館にて保管されている。

第8回 山鳥坂ダム環境検討委員会(平成18年9月12日開催)の意見、質問と補足事項(3)

No.	分類	指摘事項	第8回委員会における回答の要旨	補足事項
16	人触れ	快適性の変化で、洪水時のダム放流によって水位が急激に上昇することが考えられるが、それについては検討しているか。	洪水時は、川遊びはないと考えられるので出水時の予測は行っていないが、平常時は現状の水位よりも下がると予測される。	-
17	人触れ	活動の場では雨が降ってなくても、上流でたくさん雨が降るような場合は想定されないのか。	洪水時は放流前に警報を鳴らして注意を喚起する。さらにダム操作の中で、ゲートを上げていく時に、下流の水位が急激に上昇しないように操作規則の中で決められている。	-
18	人触れ	人と自然との触れ合いの場の影響評価では現存の施設を対象にして影響を検討しているが、新しくできる環境に対して予測を行わないのか	現在存在している場や施設に対するダムの影響の予測評価を行っており、新たに出現する施設への影響については予測評価の対象としていない。	-
19	人触れ	ダムによる自然や動植物への影響予測が多くなりがちであるが、周辺住民の生活環境についても十分な考慮すべきである。	地元住民の方の生活環境が第一と考えており、道路の計画等についても地元と相談させて頂いている状況である。今後も十分に配慮していきたい。	-
20	廃棄物	県内の最終処分場は不足気味であり、受け入れ先を確保できるか確認をした上で準備書に記載すべきである。	県内で全て受け入れ先を確保することは、非常に難しいと考えられるため、県外で最終処分する場合も想定されるので、極力処分量を減らす必要があると考えている。	-
21	廃棄物	伐採木で再利用という環境保全対策が挙げられているが、例えば、公園計画の中で植栽木として利用することが他ダムの事例であるが、その点についてはどう考えているのか。	現段階では、チップ化や売却することを対策として考えているが、シンボルとなるような木については建設発生処理場の跡地に移植するようなことも考えられる。	-
22	廃棄物	伐採木は大部分が産廃として処分されるが、腐植土や跡地への盛土材、修復土壌としての利用など現地修復に有効利用できる方策を検討して欲しい。	環境保全の観点から、そのような対策が必要と考えており、最大減有効利用できるよう検討していきたい。	-